

2025年度
第1回アドバンスト入試
時間50分 100点満点

国語

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 _____ 座席番号 _____

名 前 _____

聖学院中学校

〔一〕 次の間に答えなさい。

問一 ——— のカタカナを漢字に直しなさい。

① ハリの穴に糸を通す。 ② 店の派手なカンパンを目印にする。

③ 駅までかなりのキヨリがある。 ④ スルドい目つきでにらまれた。

問二 次の（A）～（C）にはそれぞれ同じ言葉が入ります。空欄に入るもつともふさわしい語を後の選択肢から選び、記号で答えなさい。

①

・よき（A）を得る唯一の方法は、まず自分がよき（A）になることである。（エマーソン）

・（A）とはあなたについてすべてのことを知っていて、それにもかかわらず、あなたを好んでいる人のことである（エルバート・ハバート）。

②

・人が天から心を授かっているのは、人を（B）するためである。（ニコラ・ボアロー）

・（B）する——それはお互いに見つめ合うことではなく、いつしょに同じ方向を見つめることである。（サン＝テグジュペリー）

③

・（C）のある者とは怖れを知らない人間ではなく、怖れを克服する人間のことなのだ。（ネルソン・マンデラ）

・優柔不断は疑いと恐怖を生み出し、行動は（C）を生み出す。（カーネギー）

ア、道具 イ、友人 ウ、元気 エ、勇気 オ、愛

図書委員を務める主人公（「佐竹さん」「あおちゃん」）は、あるとき司書の「しおり先生」から、生徒が書いた『おすすめおしえてノート』のリクエストに、応えるよう言われます。そこには、『女の子が主人公のお話を読みたいです。でも、恋愛、部活、友情、そういうのは苦手です』という「変わったリクエスト」が書かれていました。主人公はそのリクエストを書いた相手に共感を抱きながらおすすめの本を回答してあげました。それをふまえて、次の文を読み、後の問いに答えなさい。（「」や「」などの記号も一字と数えます）

なにか変わったお話を読んでみたくて、いつもの書架^{しょか}の前に立つた。

①図書室に入つてすぐ、受付の近くにあるこの小さな書架には、色とりどりの文庫本が収まつている。中学生に読んでもらいたい小説を、しおり先生が選んだものみたい。どれも読みやすく、十代の子たちが主人公だから共感しやすいと評判だ。

しおり先生だけじゃなくて、歴代の図書委員が選んだ本も交ざつているようだけれど、こうしてわかりやすく一つの棚に収まつてくれるのにはありがたかった。だつて、中学生や高校生が主人公の本を探すのって難しい。ライトノベルなら簡単なんだけど、そうじやない小説は、タイトルや表紙で当たりを付けて、いちいちあらすじを確認しないといけない。大人が主人公のお話は、なんだかついていけないから、あんまり読みたくない。

だからといって、恋愛ものとか、部活ものとか、そういうのは読みたくないから、この棚の中からでも、ピンと来る本を見つけるのは難しい。書架の前に立つて、背表紙に書かれた題名を、一つ一つ心の中で読み上げる。色とりどりの背表紙、なんて言つたら聞こえがいいかもしれないけれど、この書架に収まっている背表紙の色は、みんなバラバラで統一感がない。あたしからするとそこは不満な点だった。大人たちから几帳面^{きちょうめん}な性格してるって言われるせいかもしれない。

だつて、ここの一棚にある小説は、すべてタイトルの五十音順で並んでいる。だから本屋さんで見る棚みたいに、出版社とかレベルとかそういうものでまとまってない。赤い背表紙^{となり}の隣に黄色いのが来て、次は青になつたりする。あんたは信号機かつての。それだけならまだいいんだ

けれど、ライトノベルもよく交ざっているから違和感がはんぱない。^{いわかん}②ラノベの背表紙つて、イラストの一部分がタイトルの上とかに描かれてる」とがあるから、たとえば新潮文庫の隣とかに来ると、めっちゃ浮いている感じがしちゃう。

去年の夏、両親に本棚を貰つてもらつた。そこで几帳面な性格が出たんだと思う。持つていた本を作家別に揃えたり、出版社ごとに並べたり、収まつた背表紙の色合いが綺麗^{きれい}に見えるように、何時間も格闘^{かくとう}して、自分だけの本棚を作つた。

だつて、その方が見た目もいいし、目当ての本を探しやすいじゃん。

「この棚つてさ、どうして、作者とか出版社とか、そういうのでまとめたりしてないの」

不思議に思つて、しおり先生に訊ねた^{たず}ことがある。すると、しおり先生は黒縁眼鏡^{くろぶちめがね}の奥の眼を、少し不思議そうにぱちぱちとまたたかせて、笑つて言つた。

「それはね、本と出逢うのに必要なのは、誰^{だれ}が書いたものかとか、どこの会社^{かいしゃ}が出しているかとか、そういうことじやないからよ」「けど、作家さんの名前は？ 同じ人の書いた本を読みたいって思つたら？」

「そのときには、もう本との出逢いを終えているでしよう？ 作家順に並んだ書架で探せるはず。あとは、あおちゃんの本棚に収めたときに並べてあげてちょうどい」

よくわからない。でも、この棚は、どんな本を読んだらしいのかわからない子たちが、タイトルだけで心にピンと来た本と出逢うための場所なんだろう。

いま、あたしの目の前には、日焼けして何度も昔から読まれたんだろうなっていう名作っぽい小説が、瞳^{ひとみ}が大きくて可愛い女の子のイラストに挟まれてちよつと窮屈^{きゅうくつ}そうにしていた。両手に花つてやつだ。男の子ならいいんじやないと思つたけれど、この子は女の子みたいだった。だって、手に取つて表紙の絵を見ると、女の子が読みそつた雰囲気^{ふんいき}の本だったから。

新学期に、初めて借りる本はこれがいい。

あらすじを読む)ともなく、直感で決めてしまった。

受付に持つて行くと、奥のパソコンに顔を向けていたしおり先生が振り返った。

「あ、あおちやん 決めた?」

「これにします」

日焼けした本を差し出すと、先生は黙つてそれを受け取り、けれどもここに嬉しそうに微笑みながら、貸し出し手続きをしてくれた。先生はあの棚にある本だつたり、自分が読んだことのある本を生徒が借りに来ると、いつも嬉しそうに笑う。前に、どうして、そんなに嬉しそうな顔をするの、と訊いたら。

「だって、自分が好きな本を、好きになってくれるかもしないんだよ」

だからって、嬉しいものなのかなあ。あたしには、ちょっとその感覺はわからなかつたけれど、幸せそうに微笑むしおり先生の顔は、けつこう好きだつた。

「それじや、帰ります」

「はい。お疲れ様でした」

先生に頭を下げて、図書室を出る。下校時間なので、図書委員のお仕事は終了だ。仕事といつても、受付に居座つて本を読んだり、先生の仕事をちょこつと手伝つたりしたくらい。いつも居心地がいいから、当番じゃなくても、ついつい来ちゃう。

(3)廊下を歩きながら、肩に掛けた鞄の中へ文庫本をしまいこんだ。既によれよれな感じだつたけれど、鞄の中で擦れて皺ができるよう、教

科書と教科書の間に挟んでおく。

ほとんど人気のない廊下を歩いた。電灯が消されて、暗くなつてゐる教室の前を通り過ぎたせいでどうか、それに気づくと少しばかり心細さを感じる。まさかお化けが出るだなんて、そんなことを想像したわけではなかつたけれど。

突然、大きな声があがつた。

びくりとして、肩が跳ねる。

もちろん、小説で読む物語と違つて、なにか事件が起きたわけじやなかつた。ただ、耳に痛いくらい大きな笑い声をあげながら、女の子たちが階段を降りてきただけ。三人の女子が、きやはははと大声ではしゃぎながら、肩を叩いたり、肘でつついたりして、じやれ合つてゐる。ただそれだけのことだつた。けれどその無駄に大きい声は、どうしてなのか、あたしの身体を居心地悪くさせてしまう。

なにがおかしいのか知らないけどさ、そんな大声あげちゃつて、ばつかじやないの。

彼女たちの背中を睨みつけながら、歩く速度を遅くして、その二人組が通り過ぎるのを待つた。それから、その中に見知った顔が交じつていたことに気がつく。一年生のとき、同じクラスだった三崎さんだ。
どうしても、あたしは彼女のことが苦手に思えて、たまらない。

(中略)

顔を上げると、すぐ目の前に、「」のところよく観察していた人間が立つてゐる。

三崎さんだつた。

ぎよつとして、心臓が跳ね上がる。なんなの、いつたいなんの用事？ ついに宣戦布告にでもやつて來たの？ あんたたち陽キヤ(※1)が、

陰キヤ(※2)の聖域を占領しようつて算段なの？

「本を借りたいんだけれど、どうしたらしいの？」

「え、あ、えつと」

混乱気味に、カウンターを振り返る。こういうときに限って、しおり先生の姿はまだ見えない。間宮さんは読書に夢中で、こっちに気づかないふりでもしているみたいだつた。他の一年生も、奥で掲示物を作る作業をして、背中を向けている。

「それじゃ、その、本と生徒証を——」

彼女が持つてゐる本に眼をやつて、言葉を途切れさせた。とき思わず呟いてしまう。

「それ」

あたしの言葉に、三崎さんは不思議ふしきぎそうな顔をした。

「借りられない?」

「えと……。そうじやなくて」

彼女が持つていた本は、あたしがリクエストに応えて、『おすすめおしえてノート』に記した作品の一つだつた。地味なタイトル、地味な装幀そうちい、地味なあらすじと二拍子揃つていて、この本を自分から手に取らうと思つ人間なんて、まずいないだらうと思える本だつた。著者の名前だつて『さ行』なのかと思つたら『た行』を探さないとダメだつたりして、とにかく探し出すのは難しい。④それなら、三崎さんがこの本を手にしている理由は、一つしかない。

「あれ、三崎さんだったの」

「あれ?」

彼女は眉間に皺みけんを寄せて、少し難しい表情をする。

「えつと、その、あれ」

あたしは、カウンターに置かれてゐるノートを指し示した。すると、気がついたのか彼女は少し驚いたふうに眼を開いて、それから俯うつむいた。

「えつと、うん」

もしかしたら、恥ずかしかったのかもしれない。せつかく匿名（※3）で書いたのに、こうしてバレてしまったら、たぶん気まずくなる。

「あ、ごめん、えっと、これ、勧めたの、あたしで」

「なんだ？」

彼女は俯いたまま、顔を上げない。会話終了。気まずい沈黙がやつてきて、あたしは必死になつて続ける言葉を探す。結局、黙つたまま貸し出し手続きをした。本の上に彼女の生徒証を載せて、それを差し出す。

「はい。期限、一週間だから」

三崎さんは黙つたまま頷いた。彼女が本を受け取つて、あたしの指先からその質量が去つていく瞬間、慌てて付け足した。

「よかつたら、感想、聞かせて」

振り絞るみたいにこの喉から出でてきた声は、ここが教室だつたら、たちまち騒々しさでかき消えてしまうほど弱々しいものだつた。

けれど、言葉は奇跡的に届いたみたい。

「うん」

三崎さんは、手にした本を胸に押し当てるようにして頷く。

心なしか、その口元が笑つているように見えた。

⑤あたしは、本を渡すために立ち上がつた姿勢のまま、図書室を去つて行く彼女の背中を黙つて見送つていた。緊張のせいか、それとも別的原因があるのか、心臓の鼓動がうるさく音を立てて、耳の奥にまで響いていた。じきじき、していた。久しぶりの感覺だつた。掌に汗が湧き出て、胸が苦しくなり、頬が熱くなる。夢中になつて、物語のページを捲るときのよう。心躍る冒險に、主人公と共に旅立つときみたいな、そういう不思議な感じがした。

氣に入つてくれると嬉しいな、と思つた。

「だって、自分が好きな本を、好きになってくれるかもしないんだよ」

しおり先生の言葉の意味が、ほんの少しだけ理解できた気がした。

（相沢沙呼『その背に指を伸ばして』）

※1 陽キヤ…… 性格が明るく、人づきあいが得意で活発だとされる人の呼称。

※2 陰キヤ…… 引っ込み思案で内気だとされている人の呼称。

※3 匿名…… 自分の名前を隠して別名を使うこと。

問一　――①について、この書架にはどのような本が多く収められていると考えられますか。次の中から、もともとふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア、中学生のうちに読んでもおくべき日本文学や海外文学の本。
- イ、最新のニュースや流行をわかりやすく解説してくれている本。
- ウ、中学生や高校生が主人公で、身の回りの生活を題材にした本。
- エ、普段の生活を豊かにするような役に立つ知識が紹介されている本。

問二　――②について、次の問いに答えなさい。

- 1　主人公が本の並べ方で重要視しているポイントを文中より三字でぬき出して答えなさい。
- 2　しおり先生などのような考え方をもつて、このように本をバラバラに並べたのでしょうか。解答欄にあつよつ一〇字程度で答えなさい。
誰が書いたものかとか、どの会社が出しているかとか、そんなことにとらわれず、（ ）、という考え方。
- 3　主人公は「新潮文庫」の本に対してどのようなイメージをもつていますか。次の中から、もともとふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア、たくさん情報が収められている、分厚い本というイメージ。

イ、わかりやすい内容で、中学生が親しみやすい本というイメージ。

ウ、安価で、中学生でも気軽に購入することができる本というイメージ。

エ、古い歴史と大きな権威を持つた格調高い本というイメージ。

問三　――③について、この部分から、主人公の本に対する姿勢を読み取ることができます。それはどのようなものですか。解答欄にあらうよう一〇字程度で答えなさい。

() とする姿勢。

問四　――④について、三崎さんが「」の本を手にしている理由」を四〇字程度で答えなさい。

問五　――⑤について、この時の主人公の心情としてふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア、苦手な三崎さんと話すのはドキドキしたけど、うまく話すことができた。もしかしたら、これからは三崎さんと仲良くなれるかもしねない。

イ、自分の好きな本がやっと他の人にも読まれるようになった。これからもっとたくさん的人がこの本を読んで借りていってもらいたいな。ウ、自分の書いた文章を読んで、三崎さんが自分の好きな本を借りていってくれた。この本を三崎さんも好きになつてくれたらうれしいな。エ、三崎さんは話してみたらイメージと違つて、とても面白いそな人だつた。人を見た目や日頃の行動で安易に評価してはいけないな。

問六 この文章を読んだ生徒がそれぞれ感想を話し合っています。それぞれの感想を読んで、後の間に答えなさい。

【Aさん】主人公はとても細かいことが気になる性格で、よく言えば眞面目で几帳面なんだけど、悪く言えば融通が利かなくて、自分の考えとか思い込みを簡単には改められないんだと思う。ぼくは大雑把な性格だから、嫌われちゃうかもしれないね。

【Bさん】主人公と三崎さんの間にはどんな因縁いんねんがあつたんだろう。主人公が一方的に苦手にしてるようだけれど……。でも、三崎さんは主人公と仲良くしたいんだと思う。だから、わざわざ主人公のおすすめした本を借りようとしたんじやないかな。

【Cさん】主人公はしおり先生の考えをなんでも理解できているわけではないけれど、いつも朗らかなしおり先生のことを好ましく思つてゐるね。大人と子どもといつよりも、年のはなれた友達みたいな素敵な関係を結べていてると思うよ。

【Dさん】文章の表現上の特徴とくちょうとしては、主人公の視点で書かれた文章で、主人公の心情が率直に描かれているから、とても共感しやすいね。赤、黄、青の背表紙の並びを「あんたは信号機こうごうきかつての」とか、かざらない言葉で書かれているので、思わず笑つちゃつたよ。

問 文章の内容をふまえていない生徒の感想はどれですか。一つ選び、解答欄にあうように、間違えている生徒の名前を書きなさい。また、選んだ生徒の感想はどのような理由で間違っていると言えますか。その理由を説明しなさい。

〔三〕次の文章を読み、後の間に答えなさい。（「」や「。」などの記号も一字と数えます）

そのアメリカのコメディーは、代用教員のガービー先生が高校の教室に入つてくるところから始まる。

ガービー先生は、「私は一〇年も教師をしているベテランだから、じやまするなよ」と言つて、名簿を手に出席をとり始める。

ガービー .. ジエイクワリン(生徒はお互いに顔を見合わせているだけ)

ガービー .. ジエイクワリンは、どこだ。いないのか？

(生徒は、あきれたように先生を見ている)

ジャクリーン .. (手を挙げて) えーっと、ジャクリーンですか？

ガービー .. ①(怒つて)わかつた。そういうことをするんだな。(教卓を両手でたたく)

ふざけんな。

(ジャクリーンを指さして)おまえには気を付けないと、ジエイクワリン。

(名簿に戻つて)バラケ。

(生徒、互いに顔を見合わす)

ガービー .. バラケは、どこだ。今日は、バラケはいないのか。

ブレイク .. (手を挙げて) ブレイクです。

ガービー .. 頭がおかしいのか。(生徒の声を真似して)ブレイクです。

(ブレイクを指さして)けんかしたいのか、バラケ。

ブレイク .. いいえ。(泣きそうな顔)

ガービー .. 本気だぞ。

(名簿に戻つて) デイーナイス。

これ以上 ばかりしい名前を言つなら、このクラス全員に 雷かみなりが落ちるぞ。
さあ、デイーナイスだ。

デニス .. デニスのことですか。

ガービー .. ばかやろう! (膝で名簿をたたき割る) 正しい名前ひざを言え。

デニス .. デニス。

ガービー .. 正しい名前ひざだ。

デニス .. デニス。

ガービー .. 正しい名前ひざだ。

デニス .. デニス。

ガービー .. 正しい名前ひざだ。

デニス .. ディーナイス。

ガービー .. そうだ。ずっと ましだ。

この後もガービー先生は、名前を呼んでも生徒がすぐに答えないことに腹を立て、教卓の上にあつたものをたたき落としたり、校長の所に行けと命じる。②最後に、ガービー先生に「ティモーシー」と呼ばれた生徒は、本当の名前は「ティモシー」なのだが、すぐに「はい」と答える。ガービーは満足げに「よし」と言って、このコメディは終わる。

③)」のコメディの何がおもしろいのか。

おもしろいが伝わりにくいのは、私の日本語訳がへたなせいもある。それでも、ガービー先生が、生徒の名前を間違つて呼んでいるにもかかわらず、絶対に自分の呼び方が正しいと怒り狂つていることは分かるだろう。

ガービー先生は、「ジャクリーン (Jacqueline)」を「ジェイクワリン」と呼び、「ブレイク (Blake)」を「バラケ」、「デニス (Denise)」を「ティナイス」と呼ぶ。生徒が訂正するごとに烈火の「バ」にく怒りだし、先生の権力を盾に、自分の間違った呼び方を認めるまで怒鳴り続ける。

実は、このコメディのおもしろいのは、アメリカで日常的に行われている「間違った名前を使う」という権力関係を逆転させているからなのだ。アメリカの先住民や移民、そして、移民の子孫たちは、それぞれの人種や民族の歴史文化を背負った名前を持っている。しかし、④アメリカで生活していく中で、多くの人は、アメリカ人が発音しやすい名前で呼ばれたり、アメリカ人のような名前に変えられてしまう。つまり、自分の名前から、人種や民族の意味を「はじとられ」る経験をしているのだ。

「じゃあ、なんで正しい名前に訂正しないのか」と言う人がいるかもしれない。しかし、頻繁に聞き直されたり、毎回、間違つて発音されると、あきらめてしまふ場合もあるのではないか。

そこで思い出したのが、以前私が飼っていた愛犬のことだ。子どもたちの名前の上の音をつなげて「ユソ」と名付けた。本犬(人)も自分の名前が分かっていて、「ユソ」と呼ぶと、こちんを見渡す。見ただけで来ないのが、かえって、かわいい。

いろいろが、散歩に行くと、困る」とがあった。

「かわいいワンちゃんですね。なんていうお名前?」

とよく聞かれるのだ。

「ユソです」

と答えると、かならず、

「えっ！ うそ？」

と聞き返される。

ある時などは、高齢こうれいの女性に名前を聞かれたので、いつものように、「ユソです」

と答えると、驚おどろいた顔をなさつたので、

「やつぱりか」

と思つていたら、

「えっ！ ジュディ？」

と聞き返されたので、絶句してしまつた。どうから「ジュディ」が来たんだろう？

その話を小学生だった息子にしたが、

〔⑤だから、ぼくは、「ジョンです」って答えるようにしている〕

と、のたまう。

なるほど、「ジョン」だつたら聞き直される心配はないし、ユソはそこまで人間のことばを理解しないので、ユソが気分を害する心配もない。

小学生でも、しかも、自分の名前じゃなく大の名前でも、毎回聞き返されるのは面倒めんどうくさいのだ。だとしたら、アメリカに移民した人たちが、違ちつ名前で呼ばれても、いちいち直さなくなる気持ちも分かる。

ノリで重要なのは、どのような対応をするにしろ、対応を迫られるのはいつも移民や先住民の側だという事実だ。つまり、アメリカ社会の権力関係が、そのまま、だれが、自分の名前から人種や民族の意味を「はぎとられる」かを決めている。

一方、冒頭のコメディで間違った名前で呼ばれているのは、いつまは名前を言い間違えている側の生徒たちだ。Jaqueline（ジャクリーン）も、Blake（ブレイク）も、Denise（デンイス）も、どれもアメリカ社会の中枢を占める典型的なアングロ・サクソン系の名前だ。^{⑥つまり}のコメディは、移民の名前を言い間違えてきた人々に、ユーモアをこめて、名前を間違わせる理不尽さを伝えているのだ。

コメディ引用部分の最後の、ガービー先生とデニスのやりとりが象徴的だ。「正しい名前」を連呼するガービー先生は、自分こそが何が「正しい」かを決める権利を持つている」とを疑わない。

ガービー先生が、最終的に生徒を黙らせるまで理不尽に怒鳴りまくるのは、ひとつには、たかが名前に大げさに怒る^{いじる}によって、視聴者の笑いを誘っているのだろう。しかしそれ以上に重要なのは、これが、名前を間違わせている側の人たちがひしひしと感じている無言の権力や圧力を表現している点だ。

実際の教室の場面では、移民の生徒が、先生に「私の名前は、本当は、^{ノリ}う読みます」と訂正したとしても、ガービー先生のように名簿をたたき割つて怒る先生はいないだろう。しかし、それ以前に、先住民や移民とアングロ・サクソン系の人たちのあいだには厳然とした権力の違いがある。ガービー先生の大立ち回りは、移民に訂正する^{いじすらためらわせる}権力関係を文字通り体現しているのだ。

映画『千と千尋の神隠し』では、千が湯婆婆に雇つてもりおつと部屋に行くと、湯婆婆は「千尋」という名前を奪つて、あらたに「千」と名付ける。この場面でも、「名前を奪う」ことが湯婆婆の絶対的支配を象徴しているのだ。

このように、ことばが持つてゐる意味をはがす行為は、「意味の漂白」の一例だ。先住民や移民の子孫の名前をアメリカ読みにする^{ノリ}とは、それらの名前に与えられている人種や民族の歴史や文化を洗い流してしまふ行為だ。それは、「外から来た人を見えなくする」働きをし、アメリカ社会にはさまざまな文化が混ざり合つてゐることを見えなくする。「名前」ということばを操作する^{いじる}ことで、社会を理解する枠組みを操作し

ているのだ。

実は、ガービー先生のビデオを見て、五〇年以上前に、中学生になつて受けた英語の授業のことを見い出した。

先生がクラスの全員に、英語の名前を決めるように言ったのだ。それぞれが、メリードとか、ジョンとか、好きな英語の名前を決め、それを三〇センチ四方の紙に書き、三角形に折つて立てられるようにする。

英語の授業になると、その紙を出して机の上に立てる。先生は英語の授業のあいだだけ、生徒を「メリー」や「ジョン」と呼ぶのだ。英語の雰囲気づくりとしてみんな楽しんでいたが、まだ中学一年生で“This is a pen”を習つてゐる段階だつたし、知つてゐる英語の名前が限られていたので、何人かの生徒が同じ名前になつてしまつたりして、じきになし崩し的に使わなくなつてしまつた。

その後、この英語の名前についてはすっかり忘れていたが、最近になつて、私よりずっと若い人が高校の英語の時間に、同じように英語の名前を使つていて、その記事を読んだ。案外、授業中に英語の名前を使わされたという人は日本全国にいるのかもしれない。

記事によれば、このように英語圏以外の出身者が英語圏の人にとってなじみのある名前を使うことは「イングリッシュ・ネーム」と呼ばれる。英語圏の大学にいる留学生などに多く見られる。(7)外国語の名前は英語圏の話し手にとって発音が難しいので、より親しみのある英語的な名前を別に持つのだと言う。

(中略)

イングリッシュ・ネームに関しては、「コミュニケーションを円滑にするために有効だ」という意見と、「英語の名前を強制されているようでは抵抗がある」という意見が見られる。後者の意見は、ガービー先生の例と同じように、必ず英語圏以外の人々が英語の名前を使うのであって、その逆のケースはないという事実から來ているのだろう。

このような意見を尊重して、英語圏の人の中には、外国から來た人の名前を正しく発音しようと努力してくれる人もいる。一九九〇年代に滞在

たいざい

していたカナダの保育園の先生は、子どもの名前だけでなく私の名前も正しく呼びたいと言つて、真剣な顔で聞いてきた。

「あなたの名前を正しく呼びたいんだけど、正しい発音は、「モモーコー」と「モツモコー」のどっち？」

先生は、傍線の「モ」を高く発音した後、じつと私の目を見て「反応をうかがつていい。これには、まいった。どうやら、英語圏の人は、どれかの音を強調しないと話せないようで、平坦に「モモコ」という選択肢はなかったようだ。

そのどちらでもないと答えると、目を丸くして、それからは、平坦に「モモコ」と言う練習が始まった。平坦に話すことは相当むずかしかったが、私に会うたびに、平坦に言おうと努力したおかげで、驚くことに徐々に言えるようになつた。

(8)その姿を見てうれしかつたので、私も外国语の名前の人に会つたときは名前の発音を教えてもらい、何度も練習するようにしている。正しく発音できないことがほとんどだが、努力だけは続けたい。

(中村桃子『ことばが変われば社会が変わる』)

問一——①について、ガービー先生は生徒がどんな「わるふさけ」をしかけてきていると考えているやしうか。次の中から、もうともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア、自分が点呼しているのを無視して、だれも反応しないといふわるふさけ。

イ、自分の呼んだ生徒ではない、別の生徒が返事をしようとするわるふさけ。

ウ、自分の呼んだ名前を間違いあつかいして、返事をしないといふわるふさけ。

エ、自分が間違えたことを大げさに指摘して、馬鹿にしようとするわるふさけ。

問二——②について、ティモシーはなぜ間違っている名前に「はい」と答え、本当の名前を告げなかつたのでしょうか。その理由としてふさわしいものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア、ガービー先生のはつきりとした物言いに好感を抱き、別に名前を間違われてもいいと思つたから。

イ、ガービー先生の横暴なふるまいに腹が立ち、まともに相手をすることがためらわれたから。

ウ、ガービー先生のあまりにも自信に満ちた態度を見て、間違いを指摘することが気の毒だつたから。
エ、ガービー先生のかたくなな様子を見て、どうせ訂正しても聞いてくれないとあきらめたから。

問三――③について、筆者はこのコメディのどのようなところがおもしろいと考えていますか。その説明としてふさわしいものを、次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア、ガービー先生が生意気な生徒たちに屈せず、自分の考えを貫き、最終的には生徒たちを逆に打ち負かしていくところ。

イ、ガービー先生が自分の間違いを生徒たちから何度も指摘されても絶対にそれを認めず、大げさなリアクションをしているところ。

ウ、二〇年も教師をやっているベテランのガービー先生が、若い生徒にからかわれながら悪戦苦闘しているところ。

エ、ガービー先生が内心では、自分が間違っているのかも、と思いながらも、それを認められずに意固地になってしまっているところ。

問四――④について、筆者はこの「名前を変える」という行為を問題があると考えています。「名前」にはどのようなものが含まれているか

をふまえて、「なぜ」の行為が問題なのかをつぎのように説明しました。空欄部分にふさわしい文を二〇字程度で考え、文章を完成させなさい。

名前には、（ ）が含まれているが、名前を変えるという行為は、それらをはぎ取り、洗い流してしまう行為だから。

問五――⑤について、「だから」という言葉の前には、ある文章が省略されていると考えられます。その文章を考え、二〇字程度で答えなさい。

問六 —— ⑥について、このコメディにおいて、筆者は、表面的でない「隠れたおもしろさ」があると考えています。それはどのようなところですか。次の説明の空欄部分に一〇字程度の言葉をおきない、文を完成させなさい。

アメリカ社会において先住民や移民といった少数派が多数派から受けている（A）という理不尽な扱いを、ユーモアをこめて逆転させて描き、日常的にはそれを行っている多数派の人々が（B）を感じているといふ。

問七 —— ⑦について、「発音が難しい」とはどのような難しさですか、具体的に書かれた語を文中より一二三字でぬき出し、最初と最後の五字をそれぞれ答えなさい。

問八 —— ⑧について、筆者はなぜカナダの保育園の先生の行為を「うれしい」と感じているのですか「尊重」、「対等」という言葉を使い、説明しなさい。

2025年度

第一回 アドバンスト入試問題

国語・解答用紙

聖学院中学校

		三							二							一							
問八	問七	問六		問五			問四		問三	問二	問一	問六	問五	問四			問三	問二			問一	問二	問一
		B	A															3	2	1			
最初																							
最後																							

さんの発言は、
という理由で間違っている。

とする姿勢。
という考え方。
誰が書いたものかとか、どこの会社が出しているかとか、そんなことにとらわれず、